
オキタトカグラ

カナメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オキタトカグラ

【Nコード】

N8424H

【作者名】

カナメ

【あらすじ】

海でバツタリ何か全てにおいて申し訳ない…涙てか沖神なのに銀さんと土方さんの会話ばっかし…

はじまり

「何でだアアアア!!」

「それはこっちのセリフなんですけどオオオオオ!!」

「まあまあ・銀さんも土方さんも落ち着いて・・・」

『うるせえダメガネえええ!!!!』

ここは海・季節は夏・海は人であふれかえっている・

もう人人人で何が何だか分からない

そんな所で・・・

「何で万事屋がいんだよお!？」

「そっちこそ新選組は仕事もしないで何やってんのお!？」

最悪の相手同士が出会ってしまった・

新選組は近藤・土方・沖田・山崎と何時ものメンバー・

対する万事屋も銀時・新八・神楽・定春と何時ものメンバー

「こっちは仕事だ!こんだけ人いたら監視がいるだろが!なあ山崎
!」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「土方さん・山崎ならそこでミントンしてまさあ」

「山崎イイイイイイ!!」

一方の万事屋は暇だし金ないしで潮干狩りに来ていた・
んで土方が山崎を半殺しにしている時に

事件はおきた.

でっかい波が.....

ドツパ——ン

「ぎゃああああああああ!!!!」

思いっきりでっかい波が来た.
で 何故か銀時だけが流される.

しばらくして..

「ゴホッウエツ・・・ちょ・監視ならちよつとは助けるよおお!!」

見ると特徴のある銀色のテンパが緑色のワカメだらけになっていた。
そして銀時はあることに気付く・・・

「原チャリの鍵が・・・無い・・・」

・・・

「・・・ええ————!!!?じゃあ僕達どうやって帰るんですかああ!!」

「私は定春に乗って帰るネ。ヨロシ」

「よろしくねえええ!!」

そんな感じで万事屋がパニックってる時、近藤が口を開いた
「じゃあ俺達の泊まるトコに一緒にとまったらどうだ？」

・
・
・
・

「マジでええ!!??」

「いいんですか？」

「流石だてにゴリラやってないネ！」

万事屋はとりあえず助かったといった表情
土方はきにくわないといった表情

山崎はミントン

そして沖田はある決心をしていた。

この沖田の決心はまだ誰も知らない。

オキタトカグラ2

「・・・いやあ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

パンツ

『この税金泥棒オオオオオ!!!』

銀時と神楽が怒鳴る。

それもそのはず。

近藤の言葉に甘えてやってきた場所。

それはスツゲエ立派な旅館だった。

「何何何？何なのここ！？お前ら税金で何贅沢してんだああああ！！！」

「そうアル！！税金かえすネ！」

ギャーギャー喧しいなか 沖田は・・・

「おい・総悟大丈夫か？」

はつとしたように沖田が振り替える

「ああ近藤さんですかい」

沖田は何かを考えこんでいるようだった

「何かあったか？」

「いや……ちよつと。」

沖田が下をむく

「んだよ総悟お悩み事か？ん？」

「いや、実は……」

俺チャイナが好きでさあ。

「おーそうか！………
つてええええええ！！！！！！」

近藤の顔が何時にも増してゴリラっぽくなった。

「・・・何で近藤さんが赤くなってるんですかい」

「え．．．いや．だつてさあ！ねえ！？」

近藤はあたふたして周りをキョロキョロ見回している。

「・・・・・・・・で どうすんだよ」

「やりませあ」

・・・・・・・・およよよよよ!!???

「え! ちょ! 何か色々すっ飛ばしてないか!？」
近藤はもうどっから見てもゴリラな顔で言う。

「何か勘違いしてませんか? 俺は・・・告るだけですぜい。」
ゴリラが人間にもどる。

「あ! え! そう! うん! だよなあ!」

そして

「えーとじゃあ、最初っから4人で泊まる予定だったんで部屋一室しか用意してないんですよ。だから7人＋1匹同じ部屋で・・・」

「ざけんなあああああ!!!」

銀時と土方で山崎をぶん殴る。

しかし沖田にとっては最高のハプニングだった。

夜ウウウウ

夜3時頃・

流石に皆寝静まったかのように思えたが．．．．．

「眠れねえ」

沖田は一人おめめギンギン・

そして．．．．．

「チャイナの寝顔が見たい．」

そんな思いが沖田をよぎった．

そして沖田は立ち上がろうとした．

そのとき

「サド・・・？」

心臓が飛び出るかと思った。

「な・・・チャイナ・・・起きてたのか」

「そっちこそ、もうとつくに寝てると思ってたネ。」

今しかない気がした。

「チャイナ・・・」

「・・・何アルか」

「ちょっといいか？」

「は？ いや・・・別にいいけど」

「あのさあ・・・」

「・・・？」

勇気を出せ俺!!

「チャイナが好きでさあ!!」
「!!」

一瞬時間が止まった気がした。

そして・・・

全てが終わった気がした。

し
か
し

「．．
アル」

！

「え！？何て！？」

．
．
．
．
．
．
．

「だぁゝかぁゝらぁゝ!!」

「私もサド好きアル!!」

・・・
え?

「マジで?」

「だからそう言ってるアル!」

2人とも真っ赤になる.

「. . . じゃあ. . .」

?

「キス．．．とかしていいですかい？」

「いきなりだな。オイ。」

そつと2人の影がつながる。

そして

[illegible]

沈黙

「じゃあ俺寝まさあ。」

その時

ガシッ！

「!？」

振り替えると神楽が大きな青色の瞳でじっとこっちを見ている。

「・・・何でい。」

「こっちで寝ればいいネ。」

そう言って神楽が自分の布団をポンポン叩いている。

「・・・・・・・・・・犯されたいんですかい？」

「違うヨ！一緒に寝るヨロシ。」

沖田は今日死んでもいいかもしれないと思った。

「じゃあお言葉に甘えて．．．」

すつと神樂の布団に入る．

「．．．．．」

何か凄い甘くて良い匂いがした．

朝
アアアア

朝

「ギャアアアアアアア！！！！！！！」

銀時・土方・近藤・新八・山崎が叫び散らす。

「ちょおお！！！！何で沖田君と寝てるの神楽ちゃあああん！！！！？」

「総悟オオオオオ！！何やってんだてめええええ！！」

「やつぱり色々すっ飛ばしてんじゃないかあ！！！！」

「……………どういう……………ねえ」

「……………」

その時

「ん……………」

沖田が起床

続いて

「ん……………」

神楽が起床

「あ！起きたアアアア！・・・じゃなかった 沖田アアアア
！！何で神楽と寝てんの？ねえ！？」

「そんな事俺に聞かないでくださいえ・チャイナと一緒に寝ようって
言ってきたんだぜい？」

「はあー！？そっちこそキスだの何か言ってきたくせに！！」

・・・

「ホントに何してたのお前らアアアアアアアアアアアアアアアア
アア！！！！！！！！」

銀時と土方が怒鳴る・

でもそんなの全然お構い無しで

「チャイナあ チューしてくださいえ」

「サドは甘えたアルなあ」

ちゅ

「ギャアアアアアアア！……！！……！！……！！」再び銀時と土方が叫ぶ。

「今何したゴルアアアアアアアア！……！！」
もう銀時は大パニックだ。

そして

ぎゅっ

「チャイナは俺のもんでさあ。」
神楽を自分の胸寄せてもの凄いことを言った。

銀時は口を金魚みたいにパクパクしている。

旦那には悪いかもしれんけど

俺は誰よりもチャイナを愛してるから.

朝アアアアア（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございました。そして何か色々申し訳ない…涙

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8424h/>

オキタトカグラ

2010年10月9日06時52分発行